「伝え方」を考える

下旬大熊D班　大原、小原、浅田、井上、辻、蕨野

全体の流れ

議論のテーマであった「伝える」を深掘り

→そもそも伝えるとは・・・？

伝えることは実際にやってみないとうまくいくか分からない

　D班では研修会後に活動したことや感じたことを身近な人に伝えてみる

➡実際に伝えてみて、工夫する点・より伝わりやすくするための方法を考える

そもそも何のために「伝える」のか？

「伝える」といっても・・・

相手が納得したように見えても思っていたように伝わったのかは見えない100%は伝わらない

自分たちの考えが伝わったら・・・

・放射線自体に関心を持ってもらえる（※自分と全く同じ考えにしようとするのではない）

・伝えることによって、人に惑わされず判断するためのベースを作ってあげられる

・根拠のない偏見や風評被害を減らすことができる

伝える目的：知識がない人が自分で考えて、判断できるようになる

伝えた人と伝えた内容

「誰に、何を、どのように」

・床屋のおじちゃん（50代）

・家族や親戚

・大学の友人（10代、20代）

・塾の生徒（中学生）

体験談を伝えてみて

伝わったこと

- 福島・帰還困難区域・原発構内に行っても健康に影響がないこと
- 放射線が触れたら一発アウトなものではないこと

なぜうまく伝わったか

- 身近な例（X線、レントゲン何回分など）で例える
- 写真を見せる、噛み砕いて説明する
- じっくり話したら理解してくれた

体験談を伝えてみて

伝わらなかったこと

　線量、基準値、単位のような難しい専門的な言葉、理論

なぜ伝わらないか

　難しい、ややこしい、聞ききれない、日常とかけ離れている

　固定観念がぬぐえない

解決方法

難しそうに話さない ➡ 抵抗感を失くす、ハードルを下げる

話を簡単にかみ砕いて話す➡ 知識がなくても理解できるようにする

省かずに話す ➡ 疑問を残さない説明を心がける

気づいたこと

説明する際に気を付けたこと

・表現の仕方（処理水orトリチウム水）

・相手の考えをすぐに否定しない

説明する際に上手くいった方法

・話しながら補足を入れていく

・単なる事実の羅列としてではなく、自分の感想も適宜交えることで

リアル感を出し、想像しやすくする

これから伝えていかないといけない人たち

小学生など震災を知らない子供たち

情報が正しく伝わっていないかもしれない海外の人

★学んだ「伝え方」を活かした伝え方をしていく

★伝承館を修学旅行先にする

★科学館

これから伝えていくときに大事にすること

自分たちにできるのは「他の誰かに伝えること」

自分が「知らなかった大使」になる

①経験したこと ②機会 ③福島の良さ

出典:https://fukushima-shiranakatta-taishi.jp/

誰に共有するかで伝え方は変わる

「もし○○に伝えるなら…」伝え方をどう変えるか考え続ける

ご清聴ありがとうございました